

季刊

水団連

新年号

2023

No. 154

一般社団法人 日本水道工業団体連合会



江戸
八景内

乙渡亭
國貞画



シリーズ

キラリと光る！ 躍動する水団連会員

毎号、各地で活躍される水団連会員2社にスポットライトをあて、歴史や沿革、企業理念、主要な製品・技術などを紹介します。

小松電機産業株式会社

＝島根県松江市＝

○ベンチャービジネスの旗手

小松電機産業は日本のベンチャービジネスの旗手と称される創業（会長兼）社長、小松昭夫氏によって、1973年に島根県八雲村でポンプ・工場電気設備の修理業として設立した。板金・塗装設備を導入、配電盤メーカーを経て、その後、経験・設備を活かし、2大ヒット商品となるシートシャッター「Happy gate 門番」、水の総合制御管理システム「やくも水神」を開発した。また、「平和の事業化」を目的に、1994年「人間自然科学研究所」を開設、「健康・環境・平和はひとつ」を提唱し、ホームページなどで発信している。

同社の小松会長兼社長（以下「小松社長」）のもとへ、当連合会の宮崎専務理事が訪問し、これまでの道のりや経営哲学などを伺った。



小松社長

○実家の納屋からのスタート

「1971年、勤務先の倒産を契機に退職し、大阪で2年間修業。その後、八雲村にある実家にもどり、その納屋を作業場に改装し、弟

と二人でスタートしました」小松社長の道のりは苦難の連続だったとのことで、当初は工具箱、中古車、現金10万円のみでポンプの修理業から始まった。同社の柱の一つである「門番」は、前勤務先の後輩からの依頼が開発のきっかけ。これが新たなマーケット創造に繋がった。

○手持ちのスマホで遠隔操作

「やくも水神」はクラウド技術を進化させ、広域に分散している水の関連施設を制御管理するシステム。1977年、警備保障会社用に開発された装置を応用し、簡易水道監視装置を開発した。その後、公衆回線を用いた監視システムを開発、滋賀県琵琶町水処理施設に納入。さらに「科学技術庁長官注目発明選定賞」を受賞。DoPa網による無線化、2000年政府の「eジャパン構想」発表、スマートフォン・タブレット端末の急速な普及などが重なり、水のクラウド制御管理の先駆けとなった。

「やくも水神」は、施設状況をいつでもどこでも把握管理できることから、高価な専用線管理システムが不要で、管理者の負担を劇的に軽減。また経費大幅削減、記録データを活かした最適水質管理、サンプリングや帳票の自動作成など、常に進化し続けている。現在、約500自治体16,000施設で稼働しているとい

う。さらに雪国の道路の消雪システム、日本最大級の農水省・福井県九頭竜川農業用水プロジェクトにも採用。導入自治体が「水道イノベーション賞」「通信局長表彰」を受賞するなど、大きな成果が報告されている。

○世界平和事業家20人に選定

2013年、カーネギーの寄付によって創設された「平和宮」(オランダ・ハーグ市)の100周年記念事業の「世界の平和フィランソロピスト(平和事業家)20人」展に、カーネギーやノーベル、ビル・ゲイツと共に小松社長も選ばれている。アジアからは3名選出されているが、生存者は小松社長のみとのこと。

中小企業研究センター賞、日本で2社目のニュービジネス大賞など数々の受賞に続き、昨年12月にはニッポン新事業創出大賞特別

賞を受賞した。

社是『事業を通じて世界に歓びの輪を広げよう』、経営理念『おもしろ おかしく たのしく ゆかいに』、行動指針『三方良し 先義後利』などを提唱。

最後に目指す経営について伺うと、「資本主義(私益の追求)ではなく智本主義(私益と公益の世界的一致)に繋がる順序経緯を重視する『和の経営』の道を目指したい」と締めくくっていただいた。



会社の前にて